

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03642

研究課題名(和文) ワルラス一般均衡理論の思想的起源の解明 - ローザンヌ大学ワルラス文庫を手掛かりに

研究課題名(英文) The Origins of Walras's General Equilibrium Theory and the Walras Library preserved at the University of Lausanne

研究代表者

御崎 加代子 (Misaki, Kayoko)

滋賀大学・経済学部・教授

研究者番号：90242362

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ローザンヌ大学ワルラス文庫の調査を手掛かりに、一般均衡理論の思想的起源を明らかにした。(1)ワルラスがスミスから得た影響、(2)フランス18世紀思想とワルラス経済学の関係、(3)ワルラスのイギリス古典派批判の3つの観点から研究を進めたが、特に(1)について、明確な結論を示すことができた。ワルラスは『国富論』から影響を受けているのは事実であるが、意外なことに「見えざる手」の一般均衡理論(純粋経済学)への影響は皆無であり、むしろ分業理論の影響を受けている。それは応用経済学における効率性の議論においてであり、社会経済学における分業の起源については影響を受けていない点も興味深い。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、ローザンヌ大学ワルラス文庫の調査を重要な手がかりとして、ワルラスが実際にどのような文献からどのような社会経済思想を吸収し、自らの経済学体系を確立したのかを解明することによって、ワルラス経済学の真の意図と、一般均衡理論誕生の背景にある思想的・歴史的意義を明らかにした。ワルラスの一般均衡理論の起源についてはこれまで、主に理論的なアプローチに基づいて議論されてきたが、本研究は、これまでほとんど行われていないワルラスの蔵書への書き込みの調査を含む史料の検証を中心に、思想的な見地から、現代経済学成立の背景について、知られざる側面を示し、様々な誤解を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research project aims to clarify the origins of Walras' general equilibrium theory by investigating his handwritten notes left in his library preserved at the University of Lausanne. The project is composed of three parts: (1) Was Walras influenced by Smith's invisible concept? (2) How was Walras's economic theory influenced by the 18th century French thinkers? (3) How did Walras criticize the British classical school? Concerning the first question, this study gives a clear answer by examining his quotations of Smith and his handwritten notes in his copy of the Wealth of Nations. Although Walras' general equilibrium theory has often been compared to Smith's invisible hand concept, Walras himself had no intention of developing it in his pure economics. In his applied economics, he was influenced by Smith's analysis of the division of labor in terms of efficiency. However, Walras did not share the explanation of its origin in his social economics.

研究分野：経済学史

キーワード：ワルラス 一般均衡理論 ローザンヌ学派 新古典派

1. 研究開始当初の背景

現代経済学の出発点であるワルラス一般均衡理論の起源について、これまで多くの経済学者や経済学史家が取り組んできた。しかしそれらの研究の多くは、理論的な見地からワルラス一般均衡理論と過去の経済理論との類似性や継続性を指摘するものであり、「起源」を明らかにするというよりは、「先行者」の発見に重点を置いている。

そのような研究の代表として、シュンペーター『経済分析の歴史』(1954)を挙げることができる。彼はこの中で、効用価値論や相互依存体系という観点から、ワルラス一般均衡理論の生成に影響を与えた「フランスの伝統」(ボワギルベール、コンディヤック、ケネー、チュルゴ、セーなどの影響)を強調し、アダム・スミスからの影響を否定した。ところが研究代表者は、平成27年3月に、ローザンヌ大学のワルラス文庫を調査した際、偶然にも、同文庫所蔵の『国富論』にワルラス自身によるおびただしい書き込みがあるのを発見した。本研究課題に取り組む決心をしたのは、この出来事がきっかけとなっている。

またジャッフェもシュンペーターと同じような理由で、フランスの経済学者イスナールの『富論』(1781)がワルラス一般均衡理論に与えた影響を強調した。ジャッフェは、イスナールとワルラスの理論的な類似性と、ワルラス文庫にイスナールの『富論』があることをその根拠としているが、ワルラスの書き込みの有無等の検証は一切行っていない。

もちろんワルラス文庫の書き込みだけを根拠に何らかの結論を出すことは危険で、裏付けとして関連文献による十分な検証が必要である。本研究は、ワルラス文庫の調査を重要な手がかりとしつつも、ワルラスの全著作を、生前に公刊しなかった資料(ローザンヌ大学での講義録、メモなど)も含めて、徹底的に検証しながら、一般均衡理論の思想的起源について新しい解釈を提示することを目的としている。同時に、本研究課題に関連する先行研究のほぼすべてが、ワルラスの一般均衡理論(純粋経済学)のみに注目し、ワルラス経済学を構成する他の二つの部分 - 社会経済学と応用経済学を無視しているのに対し、本研究ではこの三つの分野の相互依存性を十分に考慮しつつ、結論を導き出すことを意図している

2. 研究の目的

本研究の目的は、ローザンヌ大学ワルラス文庫の調査を重要な手がかりとして、ワルラスが実際にどのような文献からどのような社会経済思想を吸収し、自らの経済学体系を確立したのかを解明することによって、ワルラス経済学の真の意図と、一般均衡理論誕生の背景にある思想的・歴史的意義を明らかにすることである。

ワルラスの一般均衡理論の起源についてはこれまで、主に理論的なアプローチに基づいて議論されてきたが、本研究は、これまでほとんど行われていない「ワルラス文庫」の調査を含む史料の検証を中心に思想史的な見地から、現代経済学成立の背景について、まったく新しい解釈を提示することを意図するものである。

3. 研究の方法

研究の方法として、大きな柱となったのは、ローザンヌ大学ワルラス文庫の調査、講義録やメモも含んだワルラスの全著作(1987-2005年に公刊された『ワルラス全集』が中

心)の検討、 関連する 18 世紀英仏経済学史・社会思想史の文献の検討(研究文献を含む)
である。

ローザンヌ大学ワルラス文庫については、書き込みの有無を含めて、その完全な蔵書目録
が『ワルラス全集』の最終巻(2005 年)で公表されて以来、利用環境は格段に改善された。
しかしながら、多くのワルラス研究が未だ主著『純粹経済学要論』の一般均衡理論やその発
展モデルにのみ依拠し、『ワルラス全集』を使ったワルラス研究の論文は、世界的に見ても
極めて少数であり、ワルラス文庫の調査に基づいたワルラス研究はほとんど存在しない。

本研究においては、ワルラス文庫の中で注目すべき著作として、スミス『国富論』、ルソ
ー『社会契約論』、J.S.ミル『経済学原理』の 3 点を定め、それらへのワルラスの書き込み
の調査を出発点に、以下の 3 つのテーマを考察した。

(1)ワルラスがスミスから得た影響、特に「見えざる手」がワルラス一般均衡理論の形成
過程に与えた影響

(2)ルソーがワルラスに与えた影響、すなわちフランス 18 世紀思想とワルラスの社会観
の関係

(3)ワルラスのミル批判、すなわちワルラス経済学(あるいは新古典派経済学)とイギリ
ス古典派との関係

これらはいずれも理論経済学、経済学史、社会思想史の古典的なテーマである。

4 . 研究成果

(1)ワルラスとスミスの「見えざる手」の関係

前述した、ワルラス文庫『国富論』におけるワルラスの書き込みを手掛かりとし、ワルラ
スがスミスから純粹・社会・応用経済学のそれぞれの分野でどのような影響を受けたかを探
った。スミスからワルラスへの直接的な思想的影響を明らかにすることによって、「見えざ
る手」から一般均衡理論へという教科書的解釈は言うまでもなく、スミスからの影響を過小
評価したシュンペーターの解釈を乗り越えて、スミスとワルラスとの関係について新しい
解釈を打ち出した。この研究成果は、“Léon Walras on *The Wealth of Nations* — What did
he learn from Adam Smith?” というタイトルで、2017 年ヨーロッパ経済思想史学会
(ESHET)のアントワープ大会で報告したのち、論文を加筆訂正し、国際査読ジャーナルに
投稿した。2020 年 6 月現在、再々投稿の審査結果を待っている状態である。

(2)ワルラスとフランス 18 世紀思想

スミスの『国富論』と並んで、ワルラスのおびただしい書き込みがある蔵書のひとつに、
ルソーの『社会契約論』がある。これを手掛かりに、特にワルラスの社会観の生成とフラン
ス啓蒙思想との関係、その一般均衡理論への影響に関して考察するのが当初の計画であっ
たが、実際にワルラス文庫の調査を行った結果、ルソーへの書き込みのほとんどは、ワルラ
ス自身のものではないという結論に至った。そこでルソーとの関係を探ることは断念し、18
世紀フランス思想がワルラス経済学に与えた影響を考察するために、イスナールの『富論』
に再度、注目した。そして『富論』へのワルラスの書き込みは皆無であることから、ジャッ
フェなどの解釈とは逆に、ワルラスが経済学形成過程においてイスナールから受けた影響

はないという仮定にたち、ワルラスとイスナールの政策論の決定的な違いについて、両者のフィジオクラート解釈を軸に明らかにした。この研究成果は、Numéraire, Workers, and the Tax system: Was Isnard a precursor of Walras?” というタイトルで、2019年ヨーロッパ経済思想史学会 (ESHET)のリアル大会で報告した。

(3) ワルラスとイギリス古典派との関係：労働市場観をめぐって

ワルラス文庫のリカードの著書には書き込みが一切ないのとは対照的に、J.S.ミル『経済学原理』にはおびただしい書き込みがある。これを再検討し、ワルラスのイギリス古典派理論批判の全貌を明らかにすることが当初の計画であった。しかしながら、ワルラス文庫の調査で再確認したところ、『経済学原理』への書き込みには、ワルラス以外の人物によるものが多く含まれており、その判別作業は非常に困難であるという結論に至った。そこで、ワルラス文庫に所蔵されているジェヴォンズの『経済学原理』の3つの版に注目し、それぞれへのワルラスの書き込みについて考察を行った。書き込みの考察はまだ継続中であるが、その途中経過について「研究ノート」として、2018年大学紀要に発表した。(「ローザンヌ大学ワルラス文庫所蔵 ジェヴォンズ『経済学の理論』三つの版(1871, 1879, 1909)をめぐって」『彦根論叢』第418号、2018年冬、pp.118-125)

この研究ノートで示したように、ワルラスはとりわけジェヴォンズのイギリス古典派批判に深く共感しており、さらにその「労働の理論」に大いに興味をもっていたということは注目に値する。このことは、2018年ヨーロッパ経済思想史学会 (ESHET)のマドリード大会で報告した、ワルラスの労働者観に関する論文 “Léon Walras on the Worker-Entrepreneur”の執筆にあたって大きなヒントとなった。またワルラスの労働市場観に関する別の論文についても、査読修正の過程で、この考察が大いに助けになった。この論文は、2018年フランスの国際査読ジャーナルに掲載された。(“The Concept of Labor Market in Léon Walras’ Pure, Social and Applied Economics, *Economia*, 8-4, 2018, pp.419-438).

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Kayoko Misaki	4. 巻 8-4
2. 論文標題 The Concept of Labor Market in Leon Walras' Pure, Social, and Applied Economics	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Oeconomia	6. 最初と最後の頁 419-438
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4000/oeconomia.3116	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Kayoko Misaki
2. 発表標題 Leon Walras on the Worker-Entrepreneur
3. 学会等名 The 22nd Annual Conference of European Society for the History of Economic Thought (ESHET) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kayoko MISAKI
2. 発表標題 Leon Walras on The Wealth of Nations; What did he learn from Adam Smith?
3. 学会等名 The 21st Annual Conference of European Society for the History of Economic Thought (ESHET) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kayoko MISAKI
2. 発表標題 "Numeraire, Workers, and the Tax system: Was Isnard a precursor of Walras?"
3. 学会等名 The 23rd Annual Conference of European Society for the History of Economic Thought (ESHET) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

御崎加代子研究室 https://kayokomisaki.com/ Research Gate Kayoko Misaki https://www.researchgate.net/profile/Kayoko_Misaki

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----